

平成28年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成29年5月

川西市（兵庫県）

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年0ヶ月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成28年度終了時点（平成29年3月31日時点）の中心市街地の概況

前計画では、再開発ビルの大規模リニューアルにより魅力的な商業環境を創出するとともに、地域資源を活用し、中心市街地に人々が回遊・滞留するための仕掛け作りを行い、商業の活性化を中心としたまちづくり活動の展開に取り組んできた。そして、核事業として進められてきたアステ川西の地下1階リニューアル事業等の実施により、川西能勢口駅周辺の魅力が回復した。さらに、川西市の中心市街地では、民間事業者による商業施設や住宅施設の整備、商業団体や商工会と市が中心となった様々なイベントが行なわれていたが、人をまちに長く滞在させることができなかったことが課題であった。

現計画で主要事業と位置付けている、駅周辺都市整備計画基本構想区域（約38ha）の北に隣接する約22.3haの中央北地区（以下「キセラ川西」という。）での各種整備事業が進捗中であるため、現時点では歩行者・自転車通行量の目標は達成していないが、来年度中に事業の完成が見込まれることから、同地区内で新たな取り組みを行っていくことで活性化が期待される。

このほか、中心市街地における魅力的でにぎわいのあるまちづくり、まちを回遊・滞留するためのネットワーク構築、様々なイベント事業の展開などを、川西市中心市街地活性化協議会を中心に、商店会や商業団体、商工会等との連携で実施するなど、にぎわいと回遊性の創出に向けた取り組みにより、以前にましてにぎわいが創出されたと考えられる。上記のように賑わいが生まれつつある一方で、川西能勢口駅東側の活性化が課題となっていたため、今年度に新規事業として「（仮称）三角地整備・運営事業」を追加し、事業者・商店会、商工会・まちづくり組織と行政が一丸となって取り組む体制を整えたことで、新たな賑わいが創出されることへの期待が高まっている。

2. 平成28年度の実績等に対する中心市街地活性化協議会の意見

川西市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整を重ねながら、活性化事業に対して、意見や提案を行ってきた。基本計画に位置づけられた事業は概ね順調に進捗しているものと考えている。

中心市街地の現況としては、基本計画に掲げた目標のうち歩行者・自転車通行量（休日）については、微減の状況が続いているものの、キセラ川西という重要なプロジェクトが引き続き進捗中であり、現時点では基本計画に示した目標値の達成に至らなかったものと認識している。平成29年度は既存事業の継続実施に加え、新事業である「（仮称）三角地整備・運営事業」によって新たに創出される川西能勢口駅東地区のにぎわいをエリア全体に波及させ、更にはこの場所を起点とした新たな回遊性を生み出すことで、目標達成にアプローチしていきたいと考えている。当協議会においても、計画事業を継続して実施する一方で、地域住民等からの十分な理解や参加のもと、中心市街地のさらなる魅力創出と活性化に向け、官民一体となって取り組む所存である。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
① 多彩な活動や交流が広がる中心市街地の創造	歩行者・自転車通行量 (休日)	67,830人 /日 (H26)	71,727人 /日 (H31)	64,996人 /日 (H28)	①	①
① 多彩な活動や交流が広がる中心市街地の創造	来街者の平均滞留時間	2.04時間 (H26)	2.42時間 (H31)	2.57時間 (H28)	①	①
② 暮らしたくなる魅力的な中心市街地の創造	人口の社会増減	4人/年 (21fy-24fy 平均)	106人/年 (27fy-31fy 平均)	161人/年 (27fy-31fy 平均)	①	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

主要事業の進捗状況については4以降に記載するところであるが、中心市街地の賑わいが創出されつつあり、民間マンションの建設も進んでいることから、今回のフォローアップの結果では「来街者の平均滞留時間」「人口の社会増減」について計画3年目を終えた時点で既に達成となった。

「歩行者・自転車通行量（休日）」については、3年連続で減少傾向を示しているが、主要事業であるキセラ川西地区のハード整備が現在も進行中であり、完了後は更なる賑わいが創出されることが考えられている。また、今回の数値減少については駅前商業施設が閉鎖したことが主な原因と考えられるが、駅前商業施設は既に新たな整備に向けて動き出しており、今後のキセラ地区の発展に伴い来街する人の量が大きく変化するものとも想定していることから、目標が達成可能と判断した。

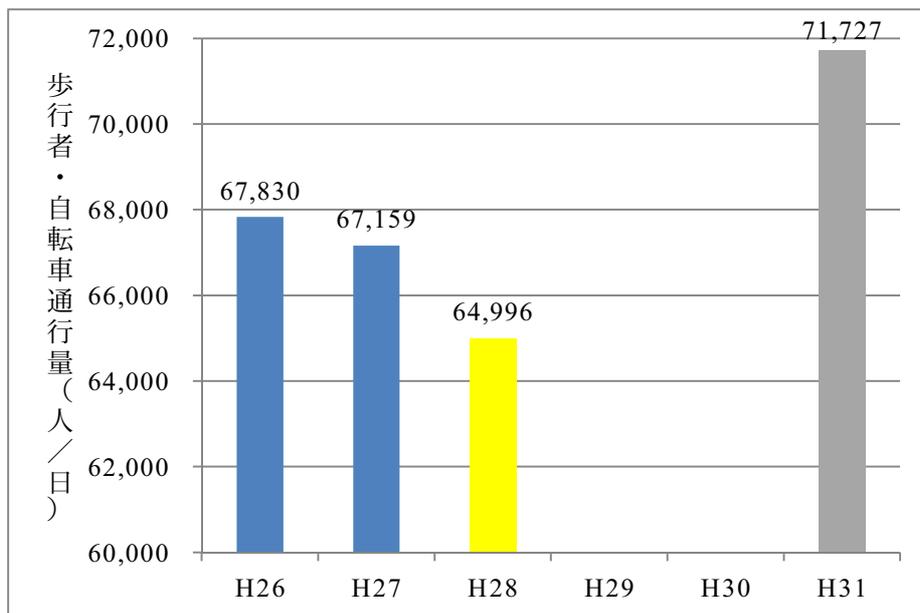
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回のフォローアップから見通しに変更はない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（休日）」※目標設定の考え方基本計画 P68～P72 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H26	67,830 人/日 (基準年値)
H27	67,159 人/日
H28	64,996 人/日
H29	
H30	
H31	71,727 人/日 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査

※調査月：毎年11月実施

※調査主体：川西市中心市街地活性化協議会

※調査対象：中心市街地における休日10地点の歩行者及び自転車数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 08：(仮称)川西市低炭素型複合施設整備事業（川西市）

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	中心市街地において、人々のであいとふれあいの場の創出を図るために位置付けている事業であり、文化ホールに加えて、福祉・保健・公民館機能が連携した複合施設を整備することで、にぎわいを創出する。
事業効果及び進捗状況	PFI手法により、文化関連施設、福祉・保健関連施設及び付帯施設（民間収益施設等）で構成する低炭素型複合施設を整備し、施設運営においてイベント開催や低炭素に関する情報発信、啓発活動等を実施することでエリアのにぎわいを創出する。平成30年度に複合施設が完成する予定である。

② 06：中央公園整備事業（川西市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	キセラ川西のシンボルとなる公園で、周辺には総合体育館や市民温水プールなどがあり、これらの施設との連携が期待される。市民の憩いの場であるとともに、防災機能を有した公園を整備することで、安全で快適な中心市街地を形成する。
事業効果及び進捗状況	平成29年7月8日に防災機能を有するキセラ川西せせらぎ公園（中央公園）が開園予定。

	開園後は、市民が主体となった市民イベントやまちづくり活動の実施が予定され、公園及びまちの活性化につながるが見込まれる。
--	---

③ 05：都市計画道路せせらぎ遊歩道整備事業（川西市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	キセラ川西のシンボルとなる遊歩道を整備することにより、キセラ川西内の回遊性を高めるとともに、コミュニケーションの場としての空間を創出する。
事業効果及び進捗状況	平成29年4月3日にせせらぎ遊歩道南線の全域が開通した。残り部分の開通後は、ワークショップで結成された自然観察チームやホテル復活プロジェクトのメンバーの活動の場となる等、市民に親しまれる遊歩道になることが期待される。

④ 11：キセラ川西マンション建設事業（川西市）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	キセラ川西に、環境共生型ライフスタイルを提案・実践する住宅供給を促進することで、中心市街地の居住人口の増加を図り、にぎわいを創出する。
事業効果及び進捗状況	平成25年度から実施しているPFI事業の一環として、民間事業者が、平成26年度から着工し、平成27年度末に完了。202戸のうち契約済みは約70%と伸び悩んでいるが、今後、中央公園やせせらぎ遊歩道が完成し、調和した景観の実現されることで賑わいが創出され、改善されると見込まれる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

（歩行者通行量について（地点についてはいずれも基本計画書69頁参照。以下同じ。））

1. 地点別通行者数を分析すると、もっとも通行量が多いのが地点②（川西能勢口駅南の歩行者デッキ）で2万人程度の通行量と、前回調査から大きな変化はない。次いで、地点①（アステ川西南側の歩行者デッキ）、地点③（川西能勢口駅北の歩行者デッキ）が1万人規模の通行量となっている。①～③の3地点で、駅周辺総通行量の6割以上を占め、川西能勢口駅を中心とした人の流れが形成されている。
2. 平成27年度に実施した前回の調査と比較すると、地点⑦（モザイクボックス西の歩道）が1,550人減と、33.4%の減少を示している。また、休日の歩行者が63,374人であったのに対し、平日の歩行者が66,275人と、平日と休日とで歩行者の量が逆転した。これは調査当日が曇天であったことに加え、川西能勢口駅前の商業施設が閉店した影響であると推測される。しかし、跡地に新たな商業施設が開設する予定であり、今後は歩行者通行量は回復するものと考えている。

（自転車通行量について）

1. 自転車通行量については地点⑨及び⑩において測定している。
2. 歩行者通行量と同じく、平日の自転車通行量の数が休日の自転車通行量を上回っている。休日の調査日が曇天であったことが要因の一つと考えられるが、平日の自転車通行量は前回比

約2.5倍と大きく上昇していることも特徴的である。

(総括)

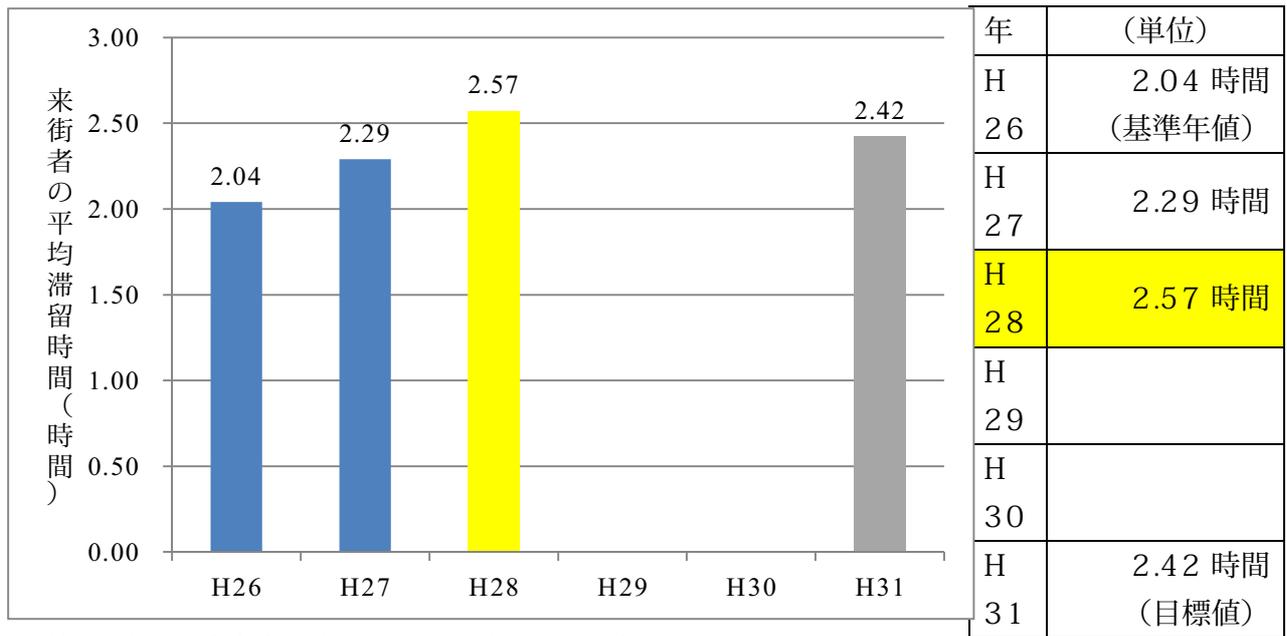
歩行者通行量の目標に関する事業としては、川西能勢口駅周辺での商業振興を目的としたイベント事業を前年度から引き続き実施している。歩行者通行量は微減が続いているが、主要事業に掲げているハード整備が引き続き実施中であり、具体的な効果が発現していないことから、大きな通行量の増に繋がっていないものと考えられる。

今年度は、「バル」や「まちなか美術館」といったまちなかを歩くイベントの開催を継続的に実施するとともに、中心市街地活性化基本計画の第2回変更において新たに加えられた「(仮称)三角地整備・運営事業」において実施される新たなにぎわい拠点の整備により、川西能勢口駅西地区に比して歩行者通行量が少ない同駅東地区への回遊を生み出し、同駅東地区の活性化を中心市街地全体の活性化に繋がられるよう事業を実施する考えである。

同事業の推進を中心として中心市街地での新たなにぎわいを創出するとともに、最終的には今後整備されていくキセラ川西と、川西能勢口駅周辺を中心としたエリアという2つの拠点の回遊性を高め、基本計画に掲げる基本方針の一つである『市民活動・交流が活発な、みんなが行きたくなる魅力あふれるまち』の達成に向け、歩行者通行量の増加を目指していく。

「来街者の平均滞留時間」※目標設定の考え方基本計画 P72～P76 参照

●調査結果の推移



※調査方法： まちなか滞留・実感調査（アンケート）

※調査月：6～7月

※調査主体：(株)地域環境計画研究所

※調査対象：川西能勢口駅周辺

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 08：(仮称)低炭素複合施設整備事業（川西市）【再掲】

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	(再掲)
事業効果及び進捗状況	PFI手法により、文化関連施設、福祉・保健関連施設及び付帯施設（民間収益施設等）で構成する低炭素型複合施設を整備し、施設運営においてイベント開催や低炭素に関する情報発信、啓発活動等を実施することでエリアのにぎわいを創出する。平成30年度に複合施設が完成する予定である。

②. 06：中央公園整備事業（川西市）【再掲】

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	(再掲)
事業効果及び進捗状況	平成29年7月8日に防災機能を有するキセラ川西せせらぎ公園（中央公園）が開園予定。 開園後は、市民が主体となった市民イベントやまちづくり活動の実施が予定され、公園及びまちの活性化につながるが見込まれる。

③. 05：都市計画道路せせらぎ遊歩道整備事業（川西市）【再掲】

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	(再掲)
事業効果及び進捗状況	平成29年4月3日にせせらぎ遊歩道南線の全域が開通した。 残り部分の開通後は、ワークショップで結成された自然観察チームや

	ホテル復活プロジェクトのメンバーの活動の場となる等、市民に親しまれる遊歩道になることが期待される。
--	---

④：きんたくんバル（中心市街地活性化協議会、きんたくんバル実行委員会）

事業完了時期	平成23年度～【実施中】
事業概要	川西能勢口周辺の美味しい・楽しいお店を広く知ってもらうために、各店舗をPRするとともに、「食べ歩き、飲み歩き」のイベントを実施し、来街者に参加してもらうことでにぎわいを創出する。
事業効果及び進捗状況	平成28年度は春・秋の2回実施し、それぞれ約60店舗の参加があった。滞留時間の創出には「食事・喫茶」が必須の機能であり、バル独特の雰囲気、普段行き慣れない店にも気軽に立ち寄れることから、消費効果に加え、来街時に普段使いしてもらえ店舗を増やす効果も見込んでいる。秋には初めて5日間の開催とするなど、新たな試みを行い、滞留時間の増大に寄与した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地内の滞留時間を計測したところ、平日で2.31時間、休日で2.82時間と休日のほうがやや長く、全体の平均時間は2.57時間と、前回調査から0.28時間増加し、2年連続で増加の傾向を示した。また、2.42時間という計画上の目標値を達成した。

アンケートで特筆すべきだったのは、『買い物の便利さ』については「とても満足 or 満足」の回答が60%（前回59%）を占めており、「不満」という回答はわずか4%（前回同数）に留まっていた点や、『居心地の良さ』については「とても満足 or 満足」の回答が55%（前回57%）、「不満」という回答はわずか4%（前回3%）に留まっていた点であった。この結果は、前回調査値と極めて酷似しており、川西市中心市街地のトレンドとして定着しつつあるものと考えられる。

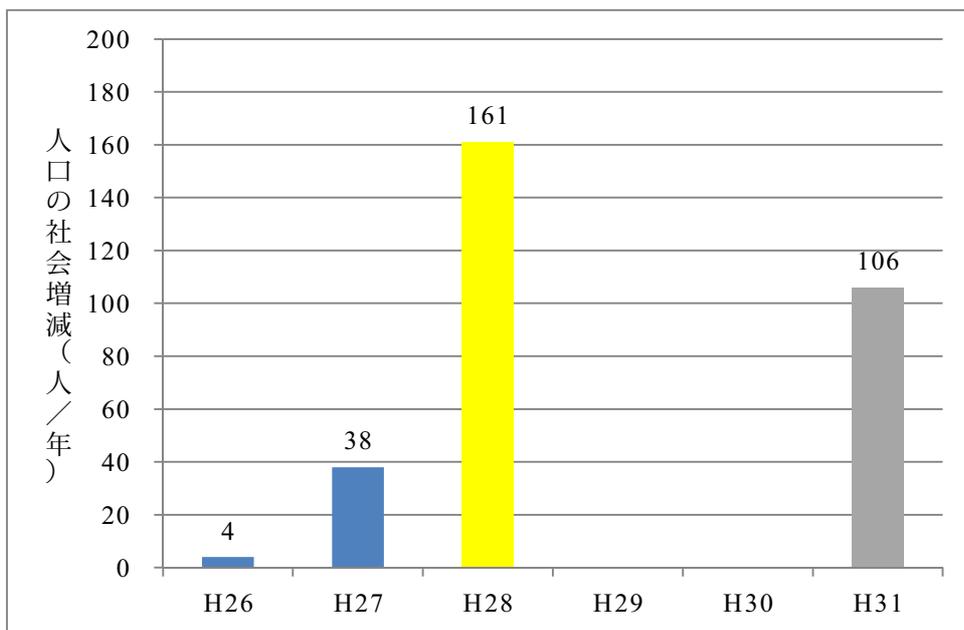
20歳代の回答を追うと、買い物の便利さには全年代のなかで唯一「満足」「とても満足」の割合が半数以下となっており、来街目的を尋ねる質問では「日々の買い物」「特別な買い物」の割合が10歳代について低く、休日の過ごし方で「大阪梅田など都心」の回答が多いことから、まちなかの買い物に魅力を感じていないことが見えてくる。しかし、「まちなかで気軽に参加できるイベントがあればよりにぎわいが生まれると思います」との声があるように、若い世代にとってまちなかの価値を高めるのはモノ消費ではなくコト消費の機会の充実であると考えている。

また、50歳代の来街頻度が最も低く、居心地の良さについても平均より15ポイント以下と最も満足度が低かった。しかし、買い物や店選び、休日の過ごし方で地元志向が強く、まちなかの催しについても「運営やボランティアスタッフなど積極的に関わりたい」が平均より特に高かった。50歳代にとっては、まちなかの催しや地域活動への参加機会がまちに愛着を感じてもらえるきっかけになるのではないかと考えている。

以上のことから28年度に事業追加した新事業である「(仮称) 三角地整備・運営事業」によって毎週イベントをやっている広場を目指し、新たに創出される川西能勢口駅東地区のにぎわいをエリア全体に波及させることで、更なる滞留時間の増加が期待されると思われる。

「人口の社会増減」※目標設定の考え方基本計画 P77～P79 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H26	4人/年 (21fy-24fy平均) (基準年値)
H27	38人/年 (27fy-31fy平均)
H28	161人/年 (27fy-31fy平均)
H29	(27fy-31fy平均)
H30	(27fy-31fy平均)
H31	106人/年 (27fy-31fy平均) (目標値)

※調査方法：住民基本台帳データから毎年度の人口の社会増減を集計

※調査月：毎年4/1現在

※調査主体：川西市

※調査対象：中心市街地エリア（10地域）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①11：キセラ川西マンション建設事業（川西市）【再掲】

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	(再掲)
事業効果及び進捗状況	平成25年度から実施しているPFI事業の一環として、民間事業者が、平成26年度から着工し、平成27年度末に完了。202戸のうち契約済が70%と伸び悩んでいるが、今後、中央公園やせせらぎ遊歩道が完成し、調和した景観の実現されることで賑わいが創出され、改善されると見込まれる。

②12：サービス付高齢者向け住宅施設整備事業（川西市）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	高齢者の居住機能の強化を図るために、川西能勢口駅前にデイサービス付住宅施設を整備することで、中心市街地の居住機能を向上させる。
事業効果及び進捗状況	平成27年7月から事業を開始している。平成29年4月現在、55戸数のほぼすべて埋まっていることから、中心市街地における社会増に寄与しているものと考えられる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成29年4月1日時点において、中心市街地の人口の社会増減は増加傾向にあり、106人という目標値を達成することができた。これは主要事業のひとつである、キセラ川西での各事業が順

調に進み賑わいが創出されつつあることに加え、サービス付高齢者住宅についても需要を捉え、ほぼすべて入居していることが要因である。

対象10地域を地域別に分けて傾向を推し量ると、火打1丁目が最も大きな社会増を計上している。これは、キセラ川西マンション建設事業の居住者が増加したことが要因と考えられる。反面、花屋敷1丁目、栄根2丁目、小花1丁目、中央町、日高町地域においては、同地域からの転出、市内転居が多く見られた。

また、中心市街地内での民間マンションの建設が進んでいることに加え、今後、主要事業であるキセラ川西エリアのハード事業が完了すれば、実際に居住するイメージが湧き、キセラ川西マンションへの居住で更なる人口増が予測されることから、引き続き主要事業を順調に進捗していく必要があると考える。